



4 G. B. V. I. C. O. 高校 (クラスでの集合写真) 5 G. B. V. I. C. O. 高校 (校長室)
6・7・8・9 ホストファミリーと(ホストファミリーと過ごした濃密な4日間であったため、涙ながらに抱き合い別れを惜しむ)

**G.B.V.I.C.O. 高校
(小・中併設) 訪問**

ここは、キエーティを代表する高校で、ホストファミリーの学生たちが通う学校です。訪問当日は、中学生の一人が誕生日ということもあり、サプライズ誕生会をしていただきました。

また、校長先生ともお会いし、今後の学校交流についての意見交換を行い、今年4月に学生を南島原市へ派遣するとのお話もいただくことができました。

ホストファミリーとの交流

中学生4人は、キエーティ市内のホストファミリーにそれぞれお世話になり、3泊4日のホームステイを体験しました。生徒たちは片言の英語やイタリア語、ボディランゲージを駆使してコミュニケーションをとりながら、それぞれの家庭で過ごしました。

最終日、ホストファミリーと生徒たちは、抱き合って別れを惜しみました。



1 表敬訪問(キエーティ市役所市長室にて)



3 ヴィオラ理事と共に桜の木(3年前に両市の交流促進を願って植樹された)への水やり



2 版画贈呈
(左から ヴィオラ理事・ブリーミオ市長・永田教育長(団長))

友好都市キエーティ市との交流

キエーティ市訪問

昨年11月に友好都市となったキエーティ市は、ローマからバスで3時間の標高330mの位置にあり、「有馬のセミナーヨ」を創設したアレックスサンドロ・ヴァリニャーノ神父の出身地です。キエーティ市役所を表敬訪問し、今後の交流について意見交換を行いました。

キエーティ市は、現在観光スポットや特産品の開発を行っており、特にワインの輸出を中心に積極的に南島原市との経済交流を進めていきたい、との意向を示されていました。

【平成遣欧少年使節派遣を終えて】

※派遣された中学生の感想文から一部を抜粋して紹介します。



中島 幸咲奈さん (加津佐中学校 3年)

私にとって最も大切な思い出になったホストファミリー(スワミ)との出会い。イタリアに来たばかりの私が、少しでも過ごしやすようと、とても親切にしてくれました。次第に緊張もとけて

いき、イタリアの生活に溶け込んでいくことができました。学んでいたイタリア語だけでは通じない場面が沢山ありましたが、お互いに片言の英語でつなぎ、身振り手振りや表情で精一杯表現して、やっと通じた時には、お互い飛び跳ねたり、ハグしたりして喜び合いました。そして、最終日には、荷造りを終え、玄関からドアの外へ出ようとした時に、三日間の思い出があふれだし、別れの時が近づいている事を実感し涙が出てきました。

スワミはお別れの前に、「My home is your home, your home is my home!」と言ってくれました。このように、たとえ

言葉が通じなくても、お互いを知りたいと思う心が、私とスワミを繋げたのだと思います。もし、これがインターネット上や、通訳があって直ぐに言葉が伝わる状況だったとしたら、ここまで仲良くなれなかった気がします。お互い目を見て、一生懸命解り合おうとしたからこそ、得る事ができた仲だと私は確信しています。今回のホームステイで、表情でのコミュニケーションの大切さや素晴らしさを強く実感しました。イタリアは、飛行機でなら一日で行けるし、思っていたより近く感じました。いつか、スワミに会いに、またイタリアを訪れて、たくさん語り合おうと思います。



笹田 深雪さん (口之津中学校 3年)

10月19日から29日までの11日間の派遣事業は、私にとって貴重な経験となりました。今回初めての海外だったこともあり、出発前から不安があったけどワクワクの方が大きく、とても楽しみでした。

イタリアに着いてまず驚いたことは、すべての建物が大きくて、まるでタイムスリップしたような街並みだったことです。その他に衝撃的だったのは、朝食がスイーツで盛りだったこと。靴を脱がず家にかかることなど日本とイタリアの習慣や文化の違いが自分自身を興味・関心に引き立たせてくれました。そして、歴史ある場所を訪れいろんな話を聞くことができました。イタリア語や英語を使ってコミュニケーションをとることは難しかったけど、違う国の人と話すのは楽しい日本のことを伝えることができたときの嬉しさは忘れられません。人と関わることの楽しさ大切

さを改めて感じました。

私の将来の夢は、看護師になることなのでこの経験を生かし、もっともっと交流の幅を広げて勉強していきたいです。平成遣欧少年使節の四人の一人として、イタリアに行けたことは、すごく誇りに思います。「楽しかった」では終わらずに、これから国際的な活動に積極的に参加して、また、イタリアに行く機会があればもっと深く歴史を知りたいと思います。この経験ができたことに感謝して、学んだことを一生の思い出として記憶にしっかり残したいと思います。本当にありがとうございました。